

「徳成随風」(21)

2014.04.12

諸戸育英会

桑高同窓会長 西羽 晃

4月は入学・進学の時節で、学園には新しい制服姿が慣れぬ様子でウロウロしている様子に、新鮮な息吹きが感じられる。桑高のサクラも昔に比べると減ったと思うが、中庭やグラウンドの東に残っていて、満開の花が華やいだ雰囲気を盛り上げている。



桑高中庭のサクラ (2014.04.02 写す)

桑高の前身の桑名高等女学校・桑名中学校時代から諸戸家育英会があり、奨学金が支給されていた。これは2代目諸戸清六が先代の供養のため、大正7(1918)年に10万円を拠出して財団法人諸戸家育英会を設立したことから始まっている。三重県内の中学校・高等女学校を卒業して、さらに高等教育を受ける者に対して学資を支給した。注目されるのは男子の中学校のみならず、女子の高等女学校も対象になっており、男尊女卑の時代にあっては画期的なことである。大正7年には桑名高等女学校はあったが、まだ桑名中学校がなかった。

大山田村(現在の桑名市の一部)在住の生徒で県内の中学校在学学生も特別に支給対象とされた。桑名中学校が設立されてからは、大山田村と桑名町在住の生徒が支給対象となった。

私が桑名高校在学中に、この育英会のことは聞いたことがなかったが、現在も

存続している話を最近に聞いて、びっくりした。インターネットで調べると、現在は公益財団法人諸戸育英会となり、大正7年発足して以来、300名余りの学生に支給されている。貨幣価値が大変動した時代に100年近くも続いている育英会（奨学会）が他にあるのか私は知らないが、おそらく稀有な存在であろう。

現在は桑名高校、四日市高校、四日市南高校の卒業生で、東京大学や京都大学など著名な国立大学へ進学した者が対象となっているが、最近では桑名高校から希望者が出ていないとか。三重・愛知・岐阜への進学者には月額2万円、その他の進学者には月額3万円が支給され、返済の義務はない。

初代諸戸清六が上水道を敷設し、桑名町・赤須賀村へ給水したが、大山田村へは給水していなかった。桑名中学校が大山田村に設立され、2代目清六の長男の民和（大正3年生まれ）が桑名中学校に進学すると、通学に便利のように桑名中学校の近くに徳成別邸を建てたとも言われる。別邸の下にある水道貯水池から水を汲み上げて屋敷内に給水するとともに、桑名中学校にも特別に給水した。

2代目清六は桑名中学校に数々の援助をしている。昭和2（1926）年にはテニスコート、昭和4年には図書千数百冊、野球の移動式バッテングゲージの寄贈をしている。また彼の力添えで、東京六大学野球の水原茂選手らをコーチに來てもらったこともあった。

諸戸両家は上水道設備を桑名町に寄付したことを始め、諸戸両家が桑名に果たした社会貢献は数限りない。今、桑高のグラウンドから諸戸徳成邸の朽ちそうな茶室が見えている。ここにマンションでも建って、桑名のブランドに傷がつくことを私は懸念している。